伝友会新聞

第01号
発行所
佐賀リハビリテーション病院
リハビリ部言語聴覚科
伝友会係

第一回伝友会〈5月19日〉

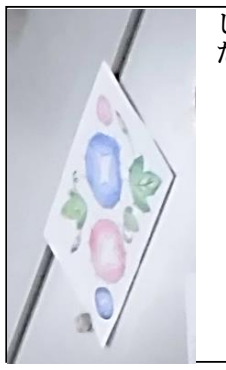
今年度初めての伝友会が5月の介護教室後に開催されました。内容は座談会を中心に行いました。今年度から参加者の方にも少しずつ運営に関わってもらう取り組みが始まり、会の挨拶を行ってもらいました。担当して頂いた木下嘉弘氏は事前練習をして臨まれました。練習時は自信のない様子もありましたが、本番では挨拶を参加者の前で行うことができ笑顔がみられていました。他の参加者からは、木下氏の姿をみて「あんなふうにできたらいいな」「勇気づけられる」といった声が上がっていました。また、入院患者の家族も多数参加されており「自分は失語症になった夫を徐々に受け入れることが出来た。」ことや、家での生活や様子等の経験談に対して発症直後の患者家族からは「障害を持って自宅に帰って生活している様子等を実際に聞けて良かった」、「在宅生活を送る方達の姿を見てとても励みになった」など退院後の生活イメージを持てたとの感想が聞かれました。

第二回伝友会〈8月29日〉

第二回は夏の終わりに行われました。前回時から退院され参加された方からは「久しぶり元気にしとったか！」など明るい挨拶や「家ではこんな生活しとるよ」等と明るく状況を説明している場面がありました。

今回より会の受付を参加者へ担当してもいました。浅田美根子氏が担当され、始まる前は不安そうにされていましたが、会が始まると、自ら参加者に話しかけ名簿にチェックし、名札を渡す場面が見られていました。

内容は、事前会議で運営メンバーから、提案された『点結び課題』を中心に行いました。仮名とカタカナの横に点があり、50音順に点を結ぶとあさがおの絵が出来上がりました。参加者同士で教え合ったり、物品の受け渡しを行ったりと作業場面では、患者同士の関わりを持つ機会となりました。



第三回伝友会〈12月13日〉

第三回は寒さも厳しい季節に行われました。この会では患者・家族グループに分け家族の方には、『失語症講座＋座談会』患者グループでは集団訓練を行いました。集団訓練では初参加の方もいたため、少し体を使った課題を行い場が和み、自然と笑顔や発言が生まれる機会となりました。

座談会では「家族の葛藤に共感できた」「本人の気持ちを知ることができた」や「本人の気持ちに寄り添うことができていなかった」等の意見や心の葛藤が聞かれました。また、家庭での取り組みや、自主訓練方法、教材等の紹介があり、他参加者からも「参考にしたい」といった声があがっていました。発症後間もない、御家族からは、「不安な想いを実際に言葉にすることや自宅での話が聞けて良かった」との感想も聞かれる貴重な会となりました。

第四回伝友会〈2月29日〉

第四回は桃の節句も近い、二月末にありました。今回初めて、共同で一つの物を作っていく共同製作を行いました。まず『春と言えば何？』のお題で、語想起を行い、出てきた『ひな祭り』を折り紙で作成しました。参加者同士で物の貸し借りや自分が作った物を相手に貼ってもらう等の依頼が多くあり、自発的な交流が見られました。和気藹々と和やかな雰囲気で活動が出来ていました。作品完成後ひな祭りの歌を、重度の失語症患者も自然と歌詞を口ずさむ様子がありました。家族の方もスタッフの関わり方を見て、メモ用紙を取り出し言葉を引き出そうとされる場面が見られていました。

編集後記「伝友会新聞について・・・」

今回、一年間の活動を新聞にまとめました。年4回の活動での写真は107枚！3月中旬に運営メンバーの木下嘉弘氏・浅田美根子氏・広本悦子氏の三人で一枚一枚確認しながら、思い出話を聞きながら作成しました。

今年度の伝友会に途中から参加した方には「伝友会という会を知ってもらいたい」また、参加されている方には「この回は～～だったね」など皆さんで楽しんでもらいたいです。